

愛媛県生物多様性センターにおける外来種対応状況(2019)

愛媛県生物多様性センター

【はじめに】

国内には約2,000種の外来生物が侵入しているとされる。このうち、日本在来の生態系、人の生命や健康、農林水産業に重大な影響を及ぼす、または及ぼす可能性が高い種を外来生物法において特定外来生物として指定しており、2019年現在、148種類の動植物が指定されている。指定された種は、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入等の取り扱いを原則禁止となっており、違反した場合は個人では3年以下の懲役若しくは300万円以下の罰金、法人では1億円以下の罰金が科せられる。愛媛県では愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づき、88種の外来種を侵略的外来種として公表しており、放逐や植栽を禁止している。生物多様性センター(以下センター)では、第2次生物多様性えひめ戦略に基づき外来生物対策の推進を図っており、外来種に係る情報収集と対応を業務の一環として実施していることから、2019年度の対応状況と今後の対応について報告する。

【報告内容】

(1)2019年度の主な外来種対応状況

哺乳類・鳥類4件、爬虫・両棲類1件、昆虫・クモ類35件の情報提供があり、対応を行った(表1)。アライグマ疑い種については、情報提供のあった地点での自動撮影カメラ撮影を行ったが、アライグマは撮影されなかった(撮影された哺乳類:タヌキ、ハクビシン)。ゴケグモ類は写真若しくは捕殺個体の持ち込みによって同定を行い、ゴケグモ類と判別されたものについては周辺環境調査等を行った。ヒアリ類は写真または個体持ち込みによる判別を行った。外来カメ類に関しては、写真による判別が中心であったが、今治市のカミツキガメに関しては2018年度以降、継続的な捕獲調査を実施している。

表1 センターへの外来種情報提供数(2019年)

	哺乳類・鳥類	爬虫・両棲類	昆虫・クモ類 (うちアリ類)	植物
東予	1	1	13(5)	0
中予	3	0	13(5)	0
南予	0	0	9(7)	0
合計	4	1	35(17)	0

■アライグマ

2019年度の確実な生息情報や捕獲情報は無かった。2018年にアライグマの生息が確認された松山市と松前町において痕跡調査を継続しているが、アライグマの特徴を有する痕跡は確認されていない。本種は2006年に松山市で1頭のオスが捕獲(金城ほか2007)されて以降、散発的な確認が続いており、2010年以降は東予地域を中心に数頭が毎年捕獲されている状況である。隣県の香川県ではすでに定着し、深刻な農業被害を生じているが、本県は農作物被害が顕著になる前の定着初期段階であるといえる。西条市、四国中央市、松野町(本種未確認)で本種の防除計画を策定しており、計画に基づいた捕獲、殺処分を市町が中心となって実施できる体制を整備している。

■ゴケグモ類(セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ)

ゴケグモ類は18件の情報提供があり、松山市1件、西条市2件、新居浜市1件はセアカゴケグモであった。また新居浜市と四国中央市で各雌1頭のハイロゴケグモ(写真1)が確認された。

セアカゴケグモは2014年に愛南町で確認されて以降、県下全域で散発的な確認であったが、2019年8月、新居浜市において県下最大規模の個体数が同一地点で確認されたことを受けて、新居浜市と愛媛県が合同で確認初期段階における対応(捕殺およびモニタリング調査)を行った。本対応においては薬剤防除が数回実施されたが、通常の農業分野で効果が期待できる摂食による殺虫効果がクモ類では期待できず、成虫や幼虫に薬剤を直接付着させなければ効果は低い。本種はグレーチング内部やパイプフェンス基部内部等に営巣、産卵することから、薬剤を体表に付着させることが農業害虫と比較して困難で、薬剤散布の殺虫効果は限定的であった可能性がある。しかしながら、本種が新居浜市で確認されて以降、モニタリング調査の一環として目視により確認した卵囊と成幼虫の物理的除去を行っており、2020年1月時点では、2019年8月と比較して低密度で推移している(図1)。次年



写真1 ハイロゴケグモ(2019年 新居浜市)

度以降もモニタリング調査を継続し、当該地域での低密度管理を支援していく。また、松山市において昨年度より確認されていた地点で複数の雌成虫と卵嚢が複数確認され、繁殖の可能性が高まったことから松山市と合同で周辺調査および1回/月のモニタリング調査を継続している。2016年に複数個体が確認された西条市では1回/年の頻度で調査を行い、経過観察を行っているが、2020年1月現在、本種は確認されていない。

本年度は、9月以降に県下主要SA、道の駅において目視調査を実施したが、ゴケグモ類は確認されていない。

■ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ)

ヒアリは兵庫県での国内初確認を受けて2017年度に62件の情報が寄せられたが、2019年度の情報提供は17件に減少した。すべて在来種または非特定外来生物であった。2018年6月、新居浜市の港湾コンテナでアカカミアリ1頭確認された(写真2)ことを受けて、新居浜市の港湾を対象に1回/月の頻度でベイトトラップによるモニタリング調査を市と共同で継続している。本年度の調査においてヒアリ、アカカミアリは確認されていない。本種の主な侵入ルートは海外航路のコンテナであり、愛媛県でも侵入の可能性は常に存在していることから、今後も警戒を続けていく必要がある。



写真2 アカカミアリ (2018年 新居浜市)

■外来カメ類

カミツキガメ(写真3)は、今治市伯方で2017年から2018年にかけて複数の目撃情報があったことから、2018年6月から今治市、とべ動物園と共同して捕獲調査を実施している。2019年度の捕獲調査では3頭のカミツキガメが捕獲されたが、6月25日、7月24日に比較的若齢の個体が捕獲された(表2)。次年度以降も捕獲調査を継続し、成体捕獲による産卵抑制を図っていく必要がある。

アカミガメは特定外来生物として指定されていないが、環境省の生態系被害防止外来種リストでは対策の緊急性が高く積極的に防除を行う必要のある「緊急対策外来種」に区分されている。センターでは2018年度から松山市内の2河川(久万川・太山寺川)を対象に3回/月の頻度でラインセンサス調査を継続しており、本種の基本的な生態を明らかにすることを試みている。

表2 今治市伯方におけるカミツキガメ捕獲状況 (2018-2019年)

年	捕獲日	方法	わな設置数	頭数	背甲長
2018	3月27日	目視/タモ網	-	1	23cm
	5月18日	その他	-	1	21cm
	5月21日	目視/タモ網	-	1	28cm
	6月28日	カゴわな	16	2	24cm 21cm
	7月27日	カゴわな	16	3	24cm 22cm 10.5cm
	8月14日	カゴわな	16	2	8.5cm 10.5cm
	8月21日	カゴわな	16	0	
	8月30日	カゴわな	4	0	
	9月26日	カゴわな	16	0	
2019	6月25日	カゴわな	18	1	12.8cm
	7月24日	カゴわな	18	1	15.0cm
	8月27日	カゴわな	18	0	
	9月20日	カゴわな	18	1	26.0cm
	10月16日	カゴわな	18	0	



写真3 カミツキガメ (2019年 今治市)

(2)今後の対応

アライグマ、セアカゴケグモ、カミツキガメは県内定着初期段階であることから、情報収集と対応を継続していく必要がある。カミツキガメについては、比較的狭い水域での繁殖初期段階であることから、少なくとも数年間の捕獲継続によって成熟個体の密度低下を図り、最終的には根絶も視野に入れた防除計画とする予定である。新居浜市で発生したセアカゴケグモについては、捕獲による低密度管理を継続し、当該地域からの拡散を抑制していく。アカカミアリとハイイロゴケグモについては、本種確認以降に実施した周辺調査でも確認されていないことから、県内未定着段階といえる。今後も情報収集に努め、初期防除の支援を行う。

(執筆者:主任研究員 村上裕)



図1 新居浜市におけるセアカゴケグモ確認頭数の推移 (2019年)